

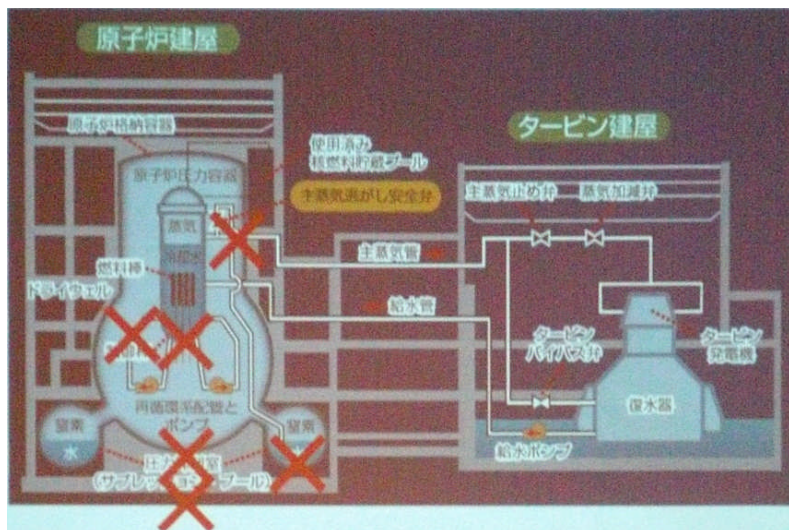
Point

J R 東海 大阪修繕車両所分会分会情報
No. 139 2011. 10. 26.
発行責任者 坂東 貞男
編集責任者 教 宣 部

原発問題を考えよう！

「NO！浜岡・NO！リニア 10.23シンポジウム」

に参加してきました！



10月23日、静岡県グランシップにおいて、リニア市民ネットを初めとした市民団体が主催する『10・23シンポジウムin静岡「NO！浜岡・NO！リニア」』が開催され、私たち大阪修繕車両所からも組合員が参加しました。シンポジウムは、最初にジャーナリスト・作家の広瀬隆氏から「浜岡原発運転再開のためのリニアに絶対反対する！！」と題した特別講演から始められました。

福島原発は放射能ジャジャ漏れで、地下水を通して海へも汚染が続いている！！

広瀬氏は、講演の中で、原発の危険性、特に福島原発事故について、現在もまだ福島原発からとてつもない放射能が出ており、汚染問題の深刻性が語られました。

広瀬さんは、図を示しながら1号機から4号機まで状態は違うが配管のあちこちが折れている。心臓部に当たる原子炉圧力容器の底も抜けている。外側にある格納容器にも穴が開いている。サブプレッションプールも穴が開いている。燃料棒が落ちてメルトダウンした状態だ。その下のコンクリートは、熱い燃料棒が落ちてきているので、溶けてしまって、ここから放射能がジャジャ漏れして、地下水とつながっている。敷地は亀裂だらけで、海とも繋がっている。建屋の上は、爆発で壊れているからここからも大量の放射能が放出されている。と福島原発事故の深刻さが語られました。

また、チェルノブイリ原発事故で子供たちに「甲状腺がん」が増えたことやスリーマイル島原発事故で、「がん」や「白血病」になる人がたくさんいた等、放射能が人間に与える影響がどんなものであったかの例を示しながら、今後、日本で「がん」を発症する人が増えるのは間違いないとも説明されました。

続いて、パネルディスカッションでは、広瀬隆氏、荻野晃也氏（電磁波環境研究所所長）、橋山禮治郎（千葉商科大学大学院客員教授）、松島信幸氏（地質学者）、赤堀ひろ子氏（生活クラブ生活協同組合静岡顧問）から、それぞれの立場で原発・リニアへの意見が述べられました。

シンポジウムの最後に「集会宣言」を参加者全員の拍手で確認しました。

シンポジウムの参加者全員が、改めて福島事故の深刻さと放射能が人間に与える影響の恐ろしさがわかり、「浜岡原発の再稼働は絶対阻止しなければならない」「地震大国である日本にある全ての原発を直ちに止めるべき」という思いをより強くできたシンポジウムでした。

明日の日本のためにも原発問題を考え、行動しましょう！